

研究構想シート	学校名	邑南町立高原小学校
	氏名	加茂 智子
A 研究主題 「自分の思いや考えを伝え合い、よりよい学校生活を築こうとする子の育成」 ～特別活動を通して～（2年次）		
B 研究の目的 自分の思いや考えを伝え合うことができ課題解決に向けて自ら取り組む児童を育てるために、特別活動（学級活動）を通してできる指導方法や手立てを探る。		
C 子どもの実態 ○話し合いのときの子どものよさ（話すこと） ・自分の考えを進んで発表できる。 ・意見をもって話し合いに臨むことができる児童が多い。 ・根拠、理由を伝えることができる。 ・他の意見を尊重しつつ、自身の考えが言える。（聞くこと） ・相手の意見を聞いて納得する部分は素直に受け入れることができる。 ・考えられていなくても「～さんはどう？」と聞ける。 ○話し合いのときの子どもの課題 ・まだ理由を言葉でうまく伝えられないことがあるので教師の補足や助言が必要。 ・友だちの新しい考えから、自分の考えへと還元できない。 ・ゆずることがいいことだと思いが深まらない。 ・話を振ったり進めたりする児童が固定化されていくため、主体的な児童と受け身な児童とで分かれてしまう。 ・話し合いを引っ張るリーダーに任せきりになることがある。 ・考える速度が人によって異なるため、グループのメンバーが待てないときがあり、結局発表しないことがある。	E 手立て・内容（研究仮説） ①. 研究仮説 仮説①（自分の思いや考えを伝え合う子） ・お互いの考えを受け止め合おうとする態度やスキルを身につければ、自分の思いや考えを伝え合えるだろう。 ・話し合いのねらいを明確にすれば、自分の思いや考えを持ち、伝え合うことができるだろう。 仮説②（課題解決に向けて自ら取り組む子） ・協働的に話し合い、実践、振り返る経験を積み重ねていけば、課題解決に向けて自ら取り組むことができるだろう。 ②. 手立て（仮説①に関わって） ・話し合いに入る前の課題やねらいを可視化するなどして確認する時間をとる。 ・相手の意見を受け止める言葉の話型や反応、話し合いの中で使うスキルを示す。 ・批判や反対をする前に、相手の考えを受け止める。 ・教師の評価言を工夫する。（少数意見を大事にし、違う考え方に気づかせる。話の仕方、受け止め方の評価） ・話し合いの進め方を子どもたちに知らせる。 （仮説②に関わって） ・議題箱やミニレターなどを活用して、身近な課題や達成できそうな課題を自分たちで選択できるようにする。 ・失敗や経験を積み重ね、活動を振り返って次の活動のポイントを整理する。 ・話し合い実行マップを示すなど、視覚的に活動全体の見通しを持てるようにする。（役割分担、どこでどんな協力ができるか等、ポイントを与える） ・一人ひとりのがんばりを認める適切な声掛けをする。（価値づける）	D めざす子どもの姿 ①自分の思いや考えを伝え合う子 ・自分の思いや考えをもち、自分の言葉（様々な表現方法）で伝える。 ・相手の思いや考えをよく聴き、しっかりと受けとめる。 ②課題解決に向けて自ら取り組む子 ・主体的に考え、行動する。
F 検証方法 ・手立てを取り入れた授業を実践し、職員間で協議、検討をする。 ・訪問指導を受け、授業研究に活かす。 ・有効であった手立て、課題を考え、研究を進める。		
G 研究計画 4月…アセスメント① 実施把握・レポート *2～6年生 5月…研究委員会 ①アセスメントの共有（2～6年生） ②今年度の研究について 6月…研究授業（2年） 7月…研究授業（年） 9月…研究授業（6年）、アセスメント① 実態・レポート *1年生のみ 10月…研究授業（年） 11月…中国地区小学校特別活動研究大会 提案発表 12月…アセスメント② 実態把握・レポート *全学年実施 1月…研究授業（年）、仮説の検証、研究レポートを受けての話し合い（成果・課題） 2月…次年度に向けての話し合い		